



「私の牛飼い」

肉用牛経営：

村上市大関 漆間マリ子氏



農家に嫁いで28年、葉タバコ、水稻、肉牛と多角経営の農業でした。労働力は父、母、主人と私の四人で、私にとっては初めての仕事でした。忙しい日々ではありましたが、父母も元気でしたので、子牛の導入には、主人と2人で、秋田、山形、岩手、宮城県などに同行したものです。それから葉タバコを止めた関係もあり、私は会社勤めをしました。その頃は、農作業は朝夕のお手伝いといったところでした。ただ、我が家の肉牛規模の拡大に伴い、毎日の帰りが遅い主人を見ていると何かが駆り立て、一緒に仕事をするようになりました。

知識も何もないので外から見た感想を述べますと県外での子牛の購入の事ですが、子牛生産地では、同業者や仲間同士の情報交換が盛んなことです。血統や発育の話題などがいろいろ聞えてきます。そして子供を嫁に出すかのような気持ちで「元気でね」と別れを言う方も珍しくありません。主人も、農閑期には仲間同士での交流や時間を見つけては、それぞれの牛飼い仲間の牛舎を行き来し情報交換などを熱心に語る姿は私の目にも頼もしく見えます。導入でも互助精神や協力体制は耕種農家とは、少し違うつながりがあると思います。何せ、血統だ、組み合わせだ、餌の割合は…等、私にはチンプンカンプンです。牛は生き物、内側は見えない、そんな中で確かな肉質を約20ヶ月で作るのですから期待と不安が交差します。

私に出来ることは牛舎の掃除、清潔が一番です。元気で腹一杯食べて、よく寝て満足している牛の姿、牛との語りいで、私の声に耳を傾けてくれます。子牛や繁殖牛なんかは、牛舎に行くと鳴いて私を迎えてくれます。黙っていても牛は、お見通しで、どんな事をやれば良いのか愛情を持って育てて行きたいと思っております。

「私にとっての農業とは」

養豚経営：

関川村蛇喰 高橋 正人氏



昨年1月より20年のサラリーマン生活を経て養豚・水稻の複合経営に2代目として就農しました。就農のきっかけは、一般企業から見れば定年を過ぎた両親から歳を感じさせない規模拡大・就農の提案があったからでした。違和感を抱く事もなく決めたのは子供の頃、祖父が数頭の豚を飼っていた事で親しみがあったのかもしれませんが。

祖父は目が不自由でしたが、ジャガイモを上手に切ったり、2階に積まれたワラを運ぶため階段を昇り降りする器用な姿が思い出されます。のんびりとした養豚でしたが、環境に優しい大切な事を教えてもらったと思います。当時は肥育だけの養豚だった為、種付けは外部に委託していました。たまたま小学校時代の同級生の父が委託先だった為記憶していたのですが、母豚導入で再会した時は少々驚きでした。3世代目の自分が付き合いを出来る事に嬉しさと共に良い心の支えとなっています。就農当初は丸粒トウモロコシによる自家配合への切り換えや、増頭、増改築と会社や自分にも大変目まぐるしい時でした。30年前、母豚80頭で始めた養豚も現在では母豚250頭・受託を含め水稻10haを経営しています。日々忙しく動き回る毎日ですが新しい事にも取り組んでいます。AIの自家採取、母豚の自家生産、水稻では減農薬栽培など、自営だからこそ出来る魅力に力を注いでいます。食の安全、脱抗生物質など課題もありますが消費者にとっては当然であり生産者にとっても大切な事です。飼育管理においても治療ではなく予防が大切なことだと思います。口にするものですから、美味しいと一緒に安心も食卓に並ぶ豚肉、肉屋さんが欲しがるものを生産していきたいと思います。夢は自分達が食べてみたい肉の掛け合わせや、横浜市場での極上格付け、ミニ豚飼育、肉の販売など目標でなく夢を大切にしていきたいです。まだまだ就農1年生、皆様のご指導は下より生産者各位の経験を少しでも身に付け今後も頑張りたいと考えております。